



こんにちは日本共産党です ハ千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党ハ千代市議団メール: kyousan@jcp-yachiyo.jp

日本共産党
ハ千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>



第684号

2025年11月17日

発行

日本共産党

ハ千代市議会議員団

ハ千代市大和田新田

312-5

全国でもハ千代市でも「不登校」が増加

「小中不登校35万人最多12年連続増、26人に1人」(24年度文科省調査)と大きな見出しで報道されました。不登校の児童・生徒は一向に減りません。ハ千代市の不登校数は、21年390人、22年440人、23年度569人で、年々増加しています。

本来、子どもたちにとって学校は、楽しく学べる場とならなければならないのに、子どもたちが行きたくない場所になってしまっています。

文科省は「無理に通学する必要はないといった保護者の意識変化が不登校増加の要因」とみていますが、保護者に責任を転嫁する極めて無責任な対応と言わざるを得ません。

子どもも先生もストレスで心身とも極限に

学校の教員は残業代も支給されず、長時間労働を強いられ心身とも極限状態に追い込まれ、23年の公立学校教職員の病気休職は全国で7,119人になっています。

学校は子どもを不登校に追い込み、教職員を心身疾患に追い込む、極めて由々しき場所になっているのが実態です。

元教員で心理臨床家の岩手哲治氏は、学校における子どもと先生のストレスについて以下のように説明しています。 ※ストレスとはストレスの原因となる外部からの刺激や要求、出来事などを指します。

●子どもが学校のストレスで傷つくとしたらストレスは何か

*相談室で子どもに聞いたこと

- ①忙しすぎてトイレに行くのがやっと ②授業が分からないテストが多すぎる。
- ③競争と成績で人間を評価 ④ルールが細かい、管理されている
- ⑤対人関係で自分を出せない ⑥先生が忙しくて相談できない

●先生が学校で疲弊するとしたらストレスは何なのか

*相談室と職員室で先生に聞いたこと

- ①連日多忙で、11時間以上の勤務と大量の仕事量 ②子どもを丁寧にケアする余裕のなさ
- ③職員会議での上からの押し付け ④自由な実践ができない
- ⑤職員室で相談できる雰囲気がない ⑥対人関係の気遣い

子ども主体に、過度な競争教育からの脱却を

子どもも先生も同じようなストレスに押しつぶされそうになっていることが見えてきました。学校を「無理が強いられるような場所」にしたのは、過度な競争教育を押し付けてきた文科省の責任です。文部行政を変えなければ子どもも先生も救われません。

日本共産党は、「子どもの権利を尊重し、子どもも親も安心できる支援を。過度の競争と管理をやめ、子どもを人間として大切にする学校を」提案しています。

不登校への支援の基本を子どもの心の傷への理解と休息・回復の保障にすること。教員の多忙化を解消し、自由を保障することなど実現が求められています。国民の力で一緒に変えていきましょう。

